



忍冬 (すいかずら)

YAH!

ヤー! Vol. 19

今月の昭和の唄 村上幸子 雨の駅裏

10.Dec.2020

支持率急降下

今さら何の支持率かここに示すこともないだろうが、そりゃあそうだろう、何をどう支持しろというんだ。嘘を引き継ぎ、それを上塗りしようとしてうまくいかない、いきなりの責任逃れ、済んだことだと言い張り、自分が言い出したことには絶対の自信…というより、意地がましくしがみついて、なお声高にその正当性を恥ずかし気もなく吹聴するばかり、いずれこれもどなたかのせいであると言い出しかねない、たぶんそういうことなのだろう。一方に、それでも支持するという数字がある。これこそいわゆる“岩盤支持層”というもののなかもしれない。疑念を持ちたくない、変化を好まない、とにかく“上意”に従っておけば、“勝ち組”になるべくすり寄ってさえいれば、おのが身に禍は及ばないとも思ってたか、思わされてか、こちらもまたなかなかにしぶとい。あくまでも、思い、信条は自由だが、いかにもバランスが悪いと言わざるを得ない。

今月の唄

雨の駅裏 歌唱：村上幸子

作詞：丹古 晴己

作曲：鈴木 淳

雨の駅裏 いつものお店 あなたの夜汽車の 汽笛がひびく
送る約束してたのに 顔見りゃきつと また泣くわ
つめたい私を ごめんなさいと 箸で書いてる 涙のカウンター

雨の駅裏 思い出通り 今夜はひとりで はしごをするわ
これが最後と 云いながら 泣いては飲んだ 恋のあと
子供の私を ごめんなさいと 酒につぶやきゃ 涙の灯がゆれる

雨の駅裏 帰らぬ夢が 悲しいしずくを 散らしてはてる
酔えぬグラスで 濡らしても 指輪のあとは痛むのに
未練な私を ごめんなさいと 空のボトルに 涙のさようなら

令和になって出会った唄である。

この歌手が若くして亡くなったのだということももちろん最近知ったことだ。その昔、文化放送の深夜放送(というより3時から5時だから早朝放送というべきか…)の『走れ歌謡曲』という番組のパーソナリティを担当していたとか、番組のことは記憶にあり、オールナイトニッポン(亀さんか、天井さんか、もしくは今仁さんか、斉藤さんか…)の後にこちらに移動したこともあったような、そこで声を聴いたかもしれない、遠い昔のことである。

高校生や大学生が聴く唄ではないし、存在すら全くもって憶えていないが、この歳になって聴けば沁みることこのうえなし、繰り返し聴いてて飽きない。『涙の最終列車』もいいが、曲としては『花ぬすびと』というのが更によく沁みる。